

九州ルーテル学院大学

Teaching Portfolio

2026



所属： 人文学部 人文学科 児童教育専攻

名前： 犬童 昭久

作成日：2026年 4月30日

九州ルーテル学院大学 ティーチング・ポートフォリオ

教員氏名：犬童 昭久

所属：人文学部 人文学科 児童教育専攻

1. はじめに

2013年に九州ルーテル学院大学人文学部に着任してから13年の大学教員生活を送っている。専門は造形教育、図工美術教育及び教員養成を中心として、公立学校や県立美術館勤務の現場体験も活かしながら本学の教育に携わっている。なお、共通教育科目のキャリア教育領域や体験学修領域に関する授業も数科目担当している。

2. 教育の責任

特に幼児・児童を対象とする教育現場において活用可能で実践的な内容を教授できるように、現在の教育現場の状況や社会に求められるニーズも探りながら、自身の研究分野でもある造形教育、図工美術教育の内容について追究している。

(1) 授業科目の担当

2023年～2025年度の3年間は以下の表の科目を担当している。

科目名	開講年度時期	履修者数	備考
図画工作科教育法	2023-2025前期	40名前後	教科及び教職に関する科目
小学校教育実習Ⅰ	2023-2025前期	40名前後	教科及び教職に関する科目
こどもと表現Ⅱ	2023-2025前期	30名前後	保育幼児教育専攻専門選択科目
保育内容の理解と方法Ⅰ	2023-2025前期	30名前後	保育幼児教育専攻専門選択科目
美術史	2023-2025前期	30名前後	共通教育選択科目
キャリア・デザインⅡ	2023-2025前期	60名前後	共通教育選択科目
ビジネスコミュニケーション	2024-2025前期	90名前後	共通教育選択科目
職場体験学修（小学校）	2023-2025前期	40名前後	共通教育選択科目

図画工作	2023-2025後期	40名前後	教科及び教職に関する科目
保育内容の理解と方法Ⅱ	2023-2025後期	30名前後	保育幼児教育専攻専門選択科目
保育内容（表現Ⅱ）	2023-2025後期	30名前後	教科及び教職に関する科目
小学校教育実習Ⅱ	2022-2025後期	40名前後	教科及び教職に関する科目
職場体験学修（インターンシップ・キャリア教育）	2023-2025通年	60名前後	共通教育選択科目
特別研究	2022-2025年度後期	6名前後	児童教育専攻専門必修科目
卒業研究	2023-2025通年	6名前後	児童教育専攻専門必修科目

■ 主要担当科目

「図画工作」

本講義では身近な素材や材料（紙や着色用具など）を用いて、基礎的な実技演習を行い、図画工作が子どもたちにとって、より意味のある充実した学習になるように理解を深めることを目標としている。

「図画工作科教育法」

小学校図画工作科の目標や内容及び教科の特性への理解を深めるとともに演習を通して図画工作教育はいかにあるべきかを学ぶ。そのため、小学校学習指導要領改訂の趣旨や教科の目標・内容について理解を深め、アクティブ・ラーニングの視点から小学校の教科書教材の分析を通して、情報機器の適切な活用を図りながら図画工作科の授業の在り方を検討することを内容としている。

「保育内容（表現Ⅱ）」

幼児の発達を「表現」領域の観点から捉え、造形表現活動を中心に幼児理解を深めながら保育内容について学ぶ。そのため、アクティブ・ラーニングの視点から情報機器の適切な活用も図りながら演習を行い、幼稚園教育要領に示された領域「表現」のねらい及び内容について総合的に理解し、幼児の発達に即した具体的な指導を想定した保育構想や方法を身に付けることを目標としている。

「保育内容の理解と方法Ⅰ・Ⅱ」

子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と、保育所保育指針に示される保育の内容を踏まえて、子どもの生活と遊びにおける体験（※）と保育の環境を捉え、以下の知識・技術を学ぶ。

1. 子どもの生活と遊びにおける他者（保育士等や他の子ども）との関係や集団の中での育ちの理解と援助に関わる知識及び技術
2. 子どもの生活や遊びにおいてイメージを豊かにし、感性を養うための環境の構成と保育の展開に必要となる知識及び技術
3. 子どもの生活と遊びにおける様々な遊具や用具、素材や教材等の特性の理解と、それらの活用や作成に必要な知識及び技術

※子どもの生活と遊びにおける体験の例

- ①見立てやごっこ遊び、劇遊び、運動遊び等における体験
- ②身近な自然やものの音や音色、人の声や音楽等に親しむ体験

- ③身近な自然やものの色や形、感触やイメージ等に親しむ体験
- ④子ども自らが児童文化財（絵本、紙芝居、人形劇、ストーリーテリング等）に親しむ体験

■ 学外での活動

芦北町立星野富弘美術館専門委員（2018-）

芦北町立星野富弘美術館運営協議会委（2021-）

NPO 法人「熊本マンガミュージアムプロジェクト」（2020-）

その他に、美術館における教育普及活動に関する実践、幼児・児童の「描画発達」や「創造性」に関する研究等を共同研究者と共に実施している。

(2) 教育組織運営

2023年度から2025年度は、教育実施に際しての学内での役割や職務として、学内における複数以上の各種委員会に携わっている。取り組みとしては学生支援委員会、広報委員会、教職・保育支援運営委員会、ハラスメント防止委員会、就職支援委員会に所属し、就職支援委員会においては委員長を務めている。

3. 教育の理念

(1) 理念1 教育者としての生き方を考える

児童・生徒の教育に携わる者としては、「どの子どもも育つ、伸びたがっている」という基本的な教育的愛情を持ちながら、子どもたちを認め、褒め、励まし、伸ばすと共に、それぞれの子どもの持ち味を生かしながら磨くという姿勢が大切である。教員養成に当たっては、教員として子どもたちの前に立つ者として、また社会人として社会から求められる教師像を踏まえながら、あくまで子どもたちの手本としての教師の在り方を求めるべく教育活動を展開している。

(2) 理念2 造形・美術を通した子どもの育成

造形・美術教育においては、豊かな情操を培うための大きな基盤のひとつとして捉え、造形・美術の楽しさや豊かさ、美しさ、味わい深さを子どもたちが享受し、生活や人生をより豊かにできるよう、造形的な見方の視点や美術への愛好心を育てる観点から造形・美術への興味・関心・意欲を喚起する授業展開を工夫しながら実践している。

(3) 理念3 教育課題を見据えた教師の在り方

現代における教育課題は、いじめ・不登校をはじめとして、規範意識、自然体験の不足、教育格差、食育、学力、体力低下等、枚挙にいとまがないが、それらの問題解決のためには、その場しのぎの対症療法ではなく、教育を、歴史的視点、世界的視野で俯瞰的に捉えることが大切である。さらに、学校、家庭、社会が一体となって次世代育成に当たることが重要である。教育に携わる多方面からの情報を受信しながら、今、何ができるのかを学生と共に探っていきたいと考えている。

4. 教育の方法

教育理念との関係では以下の点を重視した教育方法を取っている。

(1) 造形・美術教育で育てる力

すべての教育活動は究極的に人格を高めることにつながるものである。児童教育専攻の学生には「図画工作」「図画工作科教育法」等を通して、系統的、総合的な造形教育、図工美術教育の方法を身に付けさせる。保育・幼児教育専攻の学生には「保育内容（表現Ⅱ）」「保育内容の理解と方法Ⅰ」「同Ⅱ」等を通して、幼児・児童の発達を踏まえ、実践的な授業・活動の構築を図るべく、知識・技能を習得させる。

(2) 教職生活への準備

教員に求められる資質は様々であるが、熊本県や熊本市、または各自治体の「求められる教師像」を踏まえながら、一般的な教養及び教職の教養、児童・生徒の観察と理解、学級経営の手法、学級経営案、いじめや不登校への対応、児童・生徒、保護者との人間関係、信頼関係の構築等、教育現場で必要とされる対応力の一端について心構えを持たせるべく、可能な範囲で課題についてのレポートや協議、講話を提供している。

5. 教育改善のための努力

(1) 改善努力 I

主な科目の概要は以下の通りである。

科目名：「図画工作」

自己評価 絵具等使用の際の準備や片付けをスムーズに取り組ませることができた。制作も主体的に取り組むように指導ができた。

改善課題 作品発表と鑑賞の時間を十分に取ることが出来なかった。スケッチブックによるポートフォリオの活用が充分ではなかった。制作後の作品鑑賞の時間を充実させることが必要である。

改善計画 振り返りの時間として鑑賞の時間を短時間でも確保し、且つポートフォリオとしてのスケッチブックへの記録等を活用して取組の過程を確認させる。個々への対応を密にしたきめ細やかな指導を行う。学生に図画工作の実際を想定した指導内容や方法を考えさせ、題材のねらいや行う目的を明確にし、理解させる。

科目名：図画工作科教育法

自己評価 テキストを中心に基本的な理論を理解させることは概ねできた。

改善課題 模擬授業の回数が少なく、実践的内容を充実させる必要がある。併せて指導案作成等の演習の時間を増やすことが必要である。学生の力量に合わせて、より専門的な内容で取り組むことも必要である。

改善計画 質疑応答や双方向のやり取りを増やして個々への対応を密にしていく。指導案作成の際は、特に「評価」に関する項目の時間を重点的に行う。理論も理解させながら、図画工作の実際を想定した指導内容や方法を考えさせる。

科目名：「保育内容（表現Ⅱ）」

自己評価 講義の進め方を理論と演習の2部構成にすることで、理論を理解しながら演習（制作）を行うことができた。準備と片付けも含め、演習の時間配分を適度に設定することができた。

改善課題 個人での制作が多かったため、作品発表においては人数の関係上、振り返りの時間が十分に確保できない回もあった。

改善計画 内容を詰め込み過ぎず、内容を精選し、時間に余裕を持って講義を進める。学生自らが、毎回の講義で何を学ぶのかについて学生自身が確認し、見通しを持って取り組んでもらう。学修の振り返りの時間や作品発表の時間も運用を工

夫しながら、十分に確保する。

科目名：「保育内容の理解と方法Ⅰ・Ⅱ」

自己評価 当科目では演習として、班に分けて共同制作にも着手している。協働的な学びに重きを置きながら、基本的な内容を重視し、実践に役立つ内容を指導することができた。制作・後片付けも主体的に取り組むような意識付けの指導ができた。

改善課題 制作の時間を十分に取ったため、作品発表等、振り返りの時間が十分に確保できない回もあった。

改善計画 学生自身が時間配分を決め、意識しながら演習に取り組めるように促す。また、実践に役立つ指導内容や方法を考えさせながら、子どもを主体とした制作を行う意味等を理解してもらう。複数の担当者があるので、今後も各々の役割分担を明確にし、個々への対応を密にしながら、きめ細やかな取り組みを行っていく。

科目名：「美術史」

自己評価 講義内容に関連させながら、美術館訪問の回を取り入れた。この取り組みは学生が美術に対して興味関心を持つ良い機会となったようである。

改善課題 内容を詰め込み過ぎてしまっていたため、時間が足りず、学生の理解の深まりが足りない回もあった。

改善計画 教授内容を精選し、時間に余裕を持って講義を進める。学生自らが、主体的に授業に参加できるように、作品鑑賞ツールを使用した演習やグループ討議も多く取り入れる。毎回の講義で何を学ぶのかについて学生自身が確認し、見通しを持って取り組ませると共に、振り返りの時間を十分に確保する。

(2) 改善努力2

①教育内容・方法の工夫

理論と演習（制作）を連動させることで、制作の意味を理解させ、造形活動への興味・関心を高める授業展開を行っている。また、実際の教育現場での言葉がけの実例の紹介や教職員としての資質向上のための資料を提供することを通して、教職における考え方を深める授業展開を行っている。制作後には作品鑑賞の時間を設けると共にポートフォリオ・スケッチブックを作成させ、学生自らが学びの

成長の過程を振り返り、次時の学習に活用できるようにしている。適宜制作や鑑賞を取り入れて関心・意欲を喚起する授業の組み立てを行うようにしている。美術に関わる諸要素の理解が円滑となるよう、具体的な事例を示すことにより関心を高める授業展開を行っている。計画に従い授業展開を行うと共に、実際の学校現場での実例や場面を提供し、教員としての資質向上のための資料により考え方を深めるべく授業展開を行っている。

②教材作成と活用

米国で調査した「レッジョ・アプローチ」の実践事例を含めた「保育の内容（表現Ⅱ）」の資料を作成した。米国で調査した「ビジブル・シンキング」プロジェクトの実践事例を含めた「図画工作」における表現と鑑賞の指導法に関する資料を作成した。「図画工作教育法」における指導案作成等に関する資料を作成した。その他「保育内容（表現Ⅱ）」における制作の仕方等に関する指導用資料、「図画工作」における表現と鑑賞に関する指導用資料を作成し、活用している。

6.教育の成果・評価

(1) 造形教育、図画工作科教育に関する科目

演習中心の授業は学生にとっては充実感があるようであり、評価は平均値を上回っている。演習内容は模擬保育や模擬授業、または実習において活用ができたといった感想が上がっている。

(2) 教職に関する科目

「小学校教育実習」では、複数の教員で担当している。6名程度の学生に1名の教師が付き、各クラスに分かれて模擬授業や指導案作成指導を行なっている。教育実習を経験していることから、学級経営に関する討論やロールプレイ、また、赴任前研修会等を組み入れることで、現場に立つ者としての実践的な活動を取り入れている。そのような取り組みの成果として学生の評価も平均を上回っている。

7. 今後の教育に関する課題と目標

「図画工作」「図画工作科教育法」「保育内容（表現Ⅱ）」「保育内容の理解と方法Ⅰ・Ⅱ」での演習を行う際の課題として、本学には学生の制作した作品の保管場所や、演習に使用する道具が置ける十分な置き場がないことがあげられる。

毎回、限られた時間と場所で準備と後片付けを行わなければならない、計画的に取り組まなければ実施が滞ってしまう。また、学生が作成した作品も掲示する場所の確保が難しいため、そのことが学生のモチベーションの低下につながることを懸念している。現在、作成した作品は近隣の病院や園へ、掲示ボランティアも兼ね、作品を贈呈することを行うなどの工夫をして取り組んでいる。学生が意欲的に授業に参加できるように今後も工夫しながら改善を続けていきたい。

また、「小学校教育実習Ⅰ・Ⅱ」などの教職科目は現在、複数名の教員で担当しているが、学生一人ひとりへのきめ細やかな指導を行うためには各々の教員の連携と協力が不可欠である。今後、教育現場では多方面からのアプローチが必要とされ、将来、教員を目指す学生はレジリエンスや柔軟性が求められる。そのため教員が各々の専門性を活かしながら一丸となり、学生への指導・支援を行うことは今後一層必要であると考え、学生が十分に学修できるよう、尽力していきたい。

8. 参考資料

- (1) 担当科目シラバス
- (2) 授業評価アンケート結果